

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立藤井寺支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	視線入力装置の活用の拡大による教育効果の向上 学校自己診断アンケートにおける保護者による肯定的評価の向上
計画名	見る力から伝える力・働く力まで — 一個の発達を支援するための視線入力装置活用の系統化 —

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 特別支援教育の専門性と授業力向上を基盤とした学校力の向上 (2) 新学習指導要領に基づき学習内容の質的な向上と学校行事の精選を図る。「主体的・対話的で、深い学び」の観点から授業改善に積極的に取り組む。 (3) 児童生徒が意欲的に力を発揮できるよう、教材教具の開発・工夫に努める。また ICT 機器を活用し、教育効果を高める取り組みを一層進める。 (4) 校内における研修・研究活動を積極的に行うとともに、より効果的な方法を検討する。加えて近肢研・全肢研での発表など本校の取組みを広く全国に発信する。
事業目標	近年、手指の操作に困難のある児童生徒の学習や意思伝達的手段として注目を集めている視線入力装置の活用を全校的に進め、児童生徒それぞれの個の実態に合わせた効果的な活用方法を検討し、系統化を行う。 重度重複障がいのある児童生徒には見る力や認知能力を伸ばす取り組みとスイッチ入力・音声入力や視覚以外でのフィードバックなどの方法との組み合わせの検討を中心にを行い、児童生徒の個別の課題やねらいに応じて意思伝達装置としての活用やコンピュータ操作の手法としての活用へつながるように系統立てて取組みを進める。
整備した 設備・物品	視線入力装置 Tobii PC Eye Mini (2)、 視線入力用ソフトウェア (トビー視線ビューワ(2)、センサリーアイ FX(2)、トビー・コミュニケーター(2)、DroptalkWindows 版(2)) 視線入力用 Windows10 PC (2)、大型ディスプレイ(2)・支持具パソッテル(2)、 だっこスピーカー(2)、スイッチ(発声促進器 L(1)、タッチスイッチラッチ機能付き(1))、 動作解析用ソフトウェア OAK Cam(1)、オープンネット用無線アクセスポイント(8)
取組みの 主担・実施者	主担： 首席・自立活動支援部・情報教育部の教員等を中心に構成したプロジェクトチーム 実施者： 全教員の5割程度を予定
本年度の 取組内容	・各学部における授業等での取組み（自立活動の時間を中心に、児童生徒一人当たり10分から15分ずつ取り組んだ） ・大阪府教育センター、令和2年度調査・研究事業ワーキンググループ会議への研究協力 ・大阪府教育センターフォーラムにおける発表（Web開催、令和2年12月10日より令和3年1月29日） ・「肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ No.8」（ジアース教育新社）に実践事例について原稿を執筆

成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校自己診断アンケートにおける保護者による肯定的評価を 90 パーセント以上とする ② 視線入力機器の活用に取り組む児童生徒の割合を 80 パーセント以上とする ③ 実践事例を 20 例以上集める ④ 実践事例集を発行し大阪府内外に成果を広める
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和 2 年度学校教育自己診断アンケートの教育内容に関する設問に関して、保護者による肯定的評価は全項目で 90 パーセント以上の肯定的評価を得ることができた。…… (○) ② 3 年間、視線入力機器の活用に取り組み、児童生徒の特性によって視線入力機器活用へ適性の評価が適切になってきたこともあり、活用が必要な児童生徒へ集中して活用する方針に転換した。活用の割合として目標には達しなかったが、事業全体の目標の達成には大きな影響はなかった。…… (△) ③ 重度重複障がいのある児童生徒を中心に 20 例以上の実践事例を集めることができた。3 年間の実践事例の蓄積から児童生徒の発達の様子や機器活用の進展の様子も知ることができ、次年度以降の活用の礎を築くことができた。…… (◎) ④ 校外へ公開するための実践事例集の作成は行わなかったが、令和 3 年度大阪府教育センターフォーラムでの発表、授業力向上シリーズへの執筆等を通じて本校の視線入力機器の実践の成果を大阪府内外に広く伝えることができた。…… (○)
事業のまとめ	<p>3 年間の取り組みを通じて、視線入力機器の活用について校内で一定の普及を図ることができた。3 年間継続的に視線入力機器の取り組みを行った生徒の変容の様子から視線入力機器活用の有効性を周知することができた。</p> <p>また、事業開始時は大阪府下で視線入力機器の活用に取り組む支援学校は少なかったが、先進校として、研修の実施や ICT 研究協議会等での学校見学、各種研究大会での発表を通じて、各校での機器導入時の参考となる事例を提供することができた。GIGA スクール構想による入力支援装置の整備を受け、各校においてさらに視線入力装置の整備が進む中で、先進校としてより充実した取り組みができるように体制の整備や研修、実践の充実に取り組んでいきたい。</p>